

## EMDE (OEM画面 Oracle12c) のインストール

### Oracle Enterprise Manager Database Express ( EMDE )

#### の特徴と注意点

EMDE には、「データベースの起動・停止」、「バックアップ操作」、「ジョブの作成と実行」の機能がない

したがって、EMDE の操作は、データベースが起動されたことを確認してから使用する

また、起動後の使用なので Oracle11g Database Manager Database Control (DMDC) のようなデータベース**起動**時の障害対応には使えない

### Oracle Enterprise Manager Database Express ( EMDE )

#### のインストール方法

#### 標準構成でデータベースを作成した場合

標準構成でデータベースを設定すると、EMDE に必要なモジュールが自動で準備されて、データベースが作成される

この後で記述している「Oracle インストール後のチェックポイント」を実施すれば、EMDE は使用できるようになる

#### 拡張構成でデータベースを作成した場合

##### Enterprise Manager (EM) Database Express を構成する

ここにチェックが入っていれば、DB 構築時に同時に Enterprise Manager Database Express が自動で構成されてくる

※ 使用できない場合には、この後で記述している「Oracle インストール後のチェックポイント」を確認すれば、EMDE は使用できるようになる

##### Enterprise Manager (EM) Cloud Control への登録

こちら側にチェックが入っていれば、DB 構築時に同時に Enterprise Manager Cloud Control での管理が行われるように、EMCC への登録が行われる

※ このチェックは、両方に入れることも外すことも可能である



### 管理オプションの指定



- データベース操作
- 作成モード
- デプロイ・タイプ
- データベースの識別
- 記憶域オプション
- 高速リカバリ・オプション
- ネットワーク構成
- Data Vaultオプション
- 構成オプション
- 管理オプション**
- ユーザー資格証明
- 作成オプション
- サマリー
- 進行状況ページ
- 終了

データベースの管理オプションを指定します。

Enterprise Manager (EM) Database Expressの構成(C)

EM Database Expressポート(E):

Enterprise Manager (EM) Cloud Controlへの登録(R)

OMSホスト(O):

OMSポート(M):

EM管理ユーザー名(U):

EM管理パスワード(P):

## Oracle インストール後のチェックポイント (EMDE が使用できなかった場合)

- shared\_servers 初期化パラメータ  
この値は、1 以上でなければならない

### 【確認方法】

```
show parameter shared_servers
NAME                TYPE        VALUE
-----
shared_servers      integer     1
```

### 【設定方法】

```
alter system set shared_servers = 1 scope = both;
```

- EDMC が使用するポート番号  
この値は、使用するプロトコルに対して、ポート番号が割当てられていなければならない

### 【確認方法】

```
select DBMS_XDB_CONFIG.getHTTPsPort,
       DBMS_XDB_CONFIG.getHTTPPort
from dual;
```

| GETHTTPSPORT | GETHTTPPORT |
|--------------|-------------|
| 5500         | 0           |
| ↑            | ↑           |
| HTTPS プロトコル用 | HTTP プロトコル用 |

### 【設定方法】

割当てられていない場合の設定方法

```
EXEC DBMS_XDB_CONFIG.setHTTPsPort( <ポート番号> );
EXEC DBMS_XDB_CONFIG.setHTTPPort( <ポート番号> );
```

・ dispatchers 初期化パラメータ

この値は、オラクルの SID 値がセットされていなければならない

【確認方法】

```
show parameter dispatchers
```

| NAME        | TYPE   | VALUE                                   |
|-------------|--------|---|
| dispatchers | string | (PROTOCOL=TCP) (SERVICE=<Oracle_SID 値>) |

【設定方法】

```
alter system set shared_servers =  
(PROTOCOL=TCP)(SERVICE=<Oracle_SID 値>) scope = both ;
```

・ local\_listener パラメータ

※ このコマンドは、サーバーのキーボードで実行すること

この値は、サービスで起動するリスナーの情報が設定されている必要がある

【確認方法】

```
host lsnrctl status  
(DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=tcps)(HOST=hostname)(PORT=<ポート番号>))  
(Security=(my_wallet_directory=/opt/app/oracle/product/12.1.0/dbhome_1/admin/ORCL12C0/xdw_wallet))(Presentation=HTTP)(Session=RAW))
```

【設定方法】

サーバー側 listener.ora ファイルを編集する

※ ファイル編集後は、リスナー・サービスの再起動を行う必要がある

## ネットワーク関連設定

listener.ora の編集内容

```
# listener.ora Network Configuration File:
# C:\Oracle_Base\product\12.2.0\dbhome_1\network\admin\listener.ora
# Generated by Oracle configuration tools.
```

```
SID_LIST_LISTENER =
  (SID_LIST =
    (SID_DESC =
      (SID_NAME = CLRExtProc)
      (ORACLE_HOME = C:\Oracle_Base\product\12.2.0\dbhome_1)
      (PROGRAM = extproc)
      (ENVS =
        "EXTPROC_DLLS=ONLY:C:\Oracle_Base\product\12.2.0\dbhome_1\bin\
        oraclr12.dll")
      )
    )
  )
```

インストール時に自動セットされた部分  
※ EMDE 用の定義設定

```
LISTENER =
  (DESCRIPTION_LIST =
    (DESCRIPTION =
      (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = Business2-PC)(PORT =
        1521))
      (ADDRESS = (PROTOCOL = IPC)(KEY = EXTPROC1521))
      )
    )
  )
```

クライアント端末からの接続のために追加設定した部分